

## 「平成30年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	川俣町立川俣中学校（パイロット校Ⅰ）、川俣小学校（パイロット校Ⅱ）
推進協力校名	川俣町立福田小学校、富田小学校、川俣南小学校、飯坂小学校

### 川俣町「学びのスタンダード」推進地域の実践（2年次）

#### 1 目的

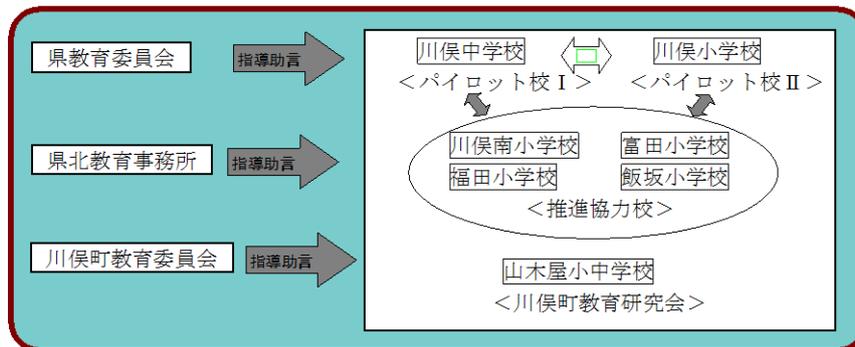
ふくしまの未来を担う子どもたちを育てるため、県内すべての小・中学校において「学びのスタンダード」（「授業スタンダード」及び「家庭学習スタンダード」）を基盤とした、より質の高い授業や効果的な家庭学習の実践、各学校における研修の充実に努め、教員の授業改善、指導力向上を図ることにより、児童生徒の学力向上を図る。

- |  |  |             |
|--|--|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の質の確保とさらなる向上</li> <li>○ 校内研修の充実</li> <li>○ 教員の学び合いの推進</li> <li>○ 家庭学習の充実</li> </ul> |  | 子どもたちの学力向上へ |
|--|--|-------------|

#### 1 パイロット校の取組内容

##### （1）推進地域による「授業スタンダード」の活用について

###### ①川俣町推進地域とのかかわり



###### ②川俣町推進地域協議会の実践内容

###### ○ 目的

福島県及び川俣町の復興を担う子どもたちに確かな学力を身に付けさせるため、「学びのスタンダード」を基盤とした、より質の高い授業や効果的な家庭学習の実践及び各学校の研修の充実に努めることなど、児童生徒の学力向上に関する事業を推進する。

###### ○ 学力向上にかかわる実践内容

- 「学びのスタンダード」推進事業を通じた、学力向上のための学習指導の改善と開発
- ア 推進地域協議会の計画的な開催
  - イ 課題の明確化と共有化（学力の実態把握、分析、対応策）
  - ウ 各園・各校への指導助言（資料提供・情報交換）
  - エ 「授業スタンダード」を基盤とした授業研究会
  - オ 幼・保・小・中の連携（教師相互の授業参観、交流学习、学習・生活に係る共通実践）
  - カ 実践資料集の作成
  - キ 推進事業効果の検証（継続的・計画的な変容の把握）
  - ク 推進事業の評価と次年度の計画
  - ケ 「家庭学習スタンダード」による家庭学習の充実と習慣化

○ 「推進地域授業研究会」の開催（年1回実施）

- ・ 11月 5日(月) 川俣中学校（国語科、数学科、外国語科、理科、社会科）
- ・ 11月 9日(金) 川俣小学校（国語科、算数科、理科、生活科）

○ 「推進地域協議会」（年6回）

- 第1回 6月 7日(木) 本年度の授業推進（組織編成）、事業計画、公開授業実施要領
- 第2回 7月10日(火) 各校の取組、各委員会の推進計画
- 第3回 8月22日(水) 「講演会」福島県教育庁義務教育課主任指導主事 小松信哉氏  
11月 5日(月)、9日(金) 推進地域授業研究会（川俣中学校、川俣小学校）
- 第4回 1月17日(木) 今年度の実践のまとめ・反省
- 第5回 2月18日(月) 次年度の研究実践計画

(2) パイロット校の「教科担任制」「タテ持ち」等、指導体制に関する具体的な取組

① パイロット校Ⅰ（川俣中学校）：数学科・国語科で「タテ持ち」を実施

〈 数学科 〉

	1 組	2 組	3 組	4 組
1 学年	N (教務主任)	E (3年主任)	M (2年副担)	M (2年副担)
2 学年	E (3年主任)	N (教務主任)	M (2年副担)	
3 学年	E (3年主任)	E (3年主任)	M (2年副担)	N (教務主任)

〈 国語科 〉

	1 組	2 組	3 組	4 組
1 学年	S (2年担任)	S (2年担任)	Y (3年担任)	H (1年担任)
2 学年	Y (3年担任)	S (2年担任)	H (1年担任)	
3 学年	H (1年担任)	S (2年担任)	Y (3年担任)	Y (3年担任)

数学科では、パイロット校の指定を受けた平成29年度に引き続き、今年度も「タテ持ち」指導体制を実践している。また、パイロット校指定2年目の実践として、国語科においても、「タテ持ち」指導体制を拡大して取り組んでいる。

指導のポイントについて共有しながら、教科担当者が協働して授業づくりを行うことを重視し、タテ持ちを行う。（県教育委員会より）

- 複数の教員の協働による質の高い授業づくり
- 3年間を見通したより系統的で関連性を重視した教科指導の実現
- テスト問題、評価の規準の統一
- 先輩教員の授業手法の学びによる効果的なスキルアップ



※ 教科部会は、月曜6校時に国語部会、木曜5校時に数学部会と時間割に位置付けて定期的に実施してきた。教科部会では、授業進捗の確認、題材や教材についての共通理解、指導のポイントの共有、授業づくり・指導案の検討、定期テスト問題や解答の検討・吟味、評価の仕方等について話し合ってきた。

② パイロット校Ⅱ（川俣小学校）：4・5・6年生で「教科担任制」を実施

川俣小学校では、4・5・6年生において、教科担任制を実施している。

ア 6年担任による専門性を活かした授業交換

6年1組担任（算数専門）：6年1、2組の算数を担当

6年2組担任（国語専門）：6年1、2組の国語を担当

イ 専科による教科担任授業 6年1、2組の理科を担当

ウ 専科による「タテ持ち」授業 4年、5年、6年1組、2組の図画工作

### (3) 推進教師の役割と具体的な取組

#### ① 推進教師の役割

- ・「授業スタンダード」に基づいた授業の実践
  - ・日常的な授業参観や指導案作成に関する支援
  - ・「研修だより」の定期的な発行 など
- ※ 全教員の授業の質的改善、校内研修の活性化を図る。



【推進教師発行の研修だより】

#### ② 具体的な取組

- ・ 推進教師による「授業スタンダード」に基づく授業実践  
⇒授業の質的改善、校内研修の活性化
- ※ パイロット校Ⅰ：11/5 推進地域授業研究会(2年国語)
- ※ パイロット校Ⅱ：9/14 学校訪問、11/9 推進地域授業研究会
- ・ 「研修だより」の発行を通して、2年目の取組の視点や互見授業の推進について、本校だけでなく他校の授業研究会での様子など研究推進のための諸連絡等を伝達した。
- ・ 校内及び協力校における指導案検討会への参加を行った。
- ・ 他のパイロット校への視察を行った。

## 2 推進協力校の取組内容

- (1) 「授業スタンダード」を活用した授業実践を行った。
- (2) 「学びのスタンダード」推進協力校として（校内授業研究会以外で）、各校1回、町内の小・中学校から参観者を受け入れ、「授業スタンダード」に基づく公開授業研究会を実施した。

学校名	福田小	川俣南小	富田小	福田小	飯坂小
実施日	6月27日	9月27日	10月31日	11月2日	12月10日
学年・教科	4年：外国語活動	3年：国語	5年：算数	6年：外国語活動	6年：算数

## 3 成果と次年度へ向けて

### (1) 成果

- 「授業スタンダード」を授業参観の視点として活用し、教科の枠を超えて互見授業を行い、昨年度に増して、教員それぞれに授業の質的改善を推進することができた。
- 中学校で「タテ持ち」を行っている国語・数学では、教科部会を時間割に位置付け、定期的に開催することによって、教員の学び合いの場を確保することができ、徐々にそのよさを実感してきている。また、小学校の教科担任制では、専門性の高い教師の授業により、単元構想の工夫や学習の仕方の統一が図られるとともに、系統性を重視した指導により、授業がより充実してきている。

### (2) 次年度へ向けて

- 小学校での「教科担任制」や中学校での「タテ持ち」について、そのよさを発信するまでに至っていない。他の教員への校内発信や他校の教員への研究公開での校外発信について取り組んでいきたい。
- 小松先生の講演会や普段の実践で、「コーディネートの重要性」を認識しつつも、実際には難しい。模範となるような実際の授業を参観・協議し、教員一人一人の実践に結び付くような研修会を実施したい。
- 指定3年目を迎えることを認識し、川俣町の小・中学校の教師一人一人が「授業が変わった」、「児童生徒のこんな姿が見られた」というように、具体的な姿を共有し、その変容を目指して実践していきたい。